



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所 (一財)日本友愛協会 発行所 千112-0002 東京都文京区小石川 1-10-13 小石川文ビル2階 TEL:03-5684-3188 FAX:03-5684-3186 E-mail:yuai@yuaiyoukai.com http://yuaiyoukai.com 発行人：川手正一郎 編集人： 隔月1回 10日発行 年会費 2,000円

平成24年度文部科学大臣賞

第23回友愛ドイツ歌曲コンクール

本選会出演者決定

十二月七日(金)旧東京音楽学校奏楽堂にて開催

声楽家の登竜門として高い評価を得ている友愛ドイツ歌曲コンクールは、第二十三回を迎えた。本コンクールは、第一次予選、第二次予選を経て本選会出場へと進む。本選会には毎年十名が選ばれ、文部科学大臣賞を始め、リヒャルト・シュトラウス賞など栄光をめぐらして熱唱を繰り広げる。本年度の応募者は一般五十名、学生九名の計五十九名。特徴としてバス、テノールなど男性声域の参加者が、半数に迫る勢いで増えたことだ。本年度も一次予選、二次予選を合格し、本選会への出場者が決定した。『友愛』紙上で出演者をご紹介します。十二月七日(金)上野の旧東京音楽学校奏楽堂で開催される是非本選会にお越しいただき、その歌声をお楽しみいただきたい。本選会出演者は、全員入賞として賞状が授与される。ご来場いただいた会場の方々が投票で選ぶ「聴衆者賞」も例年好評を博している。

*掲載写真の番号は本選会出演順・本選会のチケットは、当日会場で販売される。

今年度第二十三回友愛ドイツ歌曲コンクールは、第一次予選から本選会まですべて旧東京音楽学校奏楽堂で開催される。歴史的建造物に指定されている奏楽堂も、来年度から保存のため調査が予定されており、三年間は使用できない。その前に三回のコンクールを奏楽堂で開催出来たことは幸いであった。

物の奏楽堂は寒さが厳しい。それでも会場では、熱唱が繰り広げられた。一次予選結果 一般四十九名、学生九名の出演者の演奏が済み、審査の結果、一般二十二名、学生五名が合格し、二次予選へ進むこととなった。

二次予選結果 十一月九日(金)午後三時より二次予選開催。第一次予選を上回る、多くの来場者、会場には活気がある。審査員の方々は、「皆一次予選よりずっと力が溢れている」「今年は非常に水準が高い」と、好評価が聞かれた。午後七時、全ての出演者の演奏が終わり、審査に入った。本年度から会場運営・進

友愛ドイツ歌曲コンクール本選会出演者決定. 1 細井 暁子さん (ほそい あきこ) メゾソプラノ 学生の部. 2 山下 裕賀さん (やました ひろか) メゾソプラノ 学生の部. 3 橋田 有美さん (きった ゆみ) ソプラノ 一般の部. 4 松本 秋音さん (まつもと あきね) ソプラノ 一般の部. 5 武田 直之さん (たけだ なおゆき) バリトン 一般の部. 6 藤井 玲南さん (ふじい れな) ソプラノ 一般の部. 7 加藤 宏隆さん (かとう ひろたか) バスバリトン 一般の部. 8 深瀬 廉さん (ふかせ れん) バリトン 一般の部. 9 土橋 創さん (どばし そう) バリトン 一般の部. 10 渡邊 有希子さん (わたなべ ゆきこ) ソプラノ 一般の部.

友愛植林訪中団 参加者募集 現地を訪ねて実感しよう!

第21次福建省アモイ市同安区 第22次湖北省孝感市

日本友愛協会の事業の一環として毎年行っている植林訪中も十年を経過、本年度は第二十二次、第二十三次の訪中団を派遣することとなった。左記要領で参加者の募集を開始する。

第二十二次植林訪中予定 植林地 福建省アモイ市同安区 期間 平成二十五年三月五日(火)〜三月八日(金) 三泊四日 参加費 一般十万円 学生五万円(往復航空機運

第二十三次植林訪中予定 植林地 湖北省孝感市 期間 平成二十五年三月十四日(木)〜三月十七日(日) 三泊四日 参加費 一般十万円 学生五万円(往復航空機運



友愛時評 ユーロ危機(ほれ話)その三 九月下旬、今年からミュンヘンに滞在している畏友を訪れた。現地に着いた日は何とも間の悪いことにオクトーバーフェストの初日だった。... ユーロ危機(ほれ話)その三 九月下旬、今年からミュンヘンに滞在している畏友を訪れた。現地に着いた日は何とも間の悪いことにオクトーバーフェストの初日だった。... ユーロ危機(ほれ話)その三 九月下旬、今年からミュンヘンに滞在している畏友を訪れた。現地に着いた日は何とも間の悪いことにオクトーバーフェストの初日だった。...

東シナ海を友愛の海に

―東アジア共同体構想―

日本友愛協会副理事長 鳩山由紀夫

もう一つのノーベル賞

山中伸弥京大教授が今年のノーベル医学・生理学賞に選ばれたことは暗い日本の世相を覆す快挙です。いつかはと思っていました。これだけ早く受賞されたのは、iPS細胞の医療への適用が予想以上に早いのだろうと実感いたしました。これまで医療分野の優れた学者は日本では恵まれません。政府は彼らが日本で研究を続けられるよう、中長期的に集中的に投資すべきです。

今日私がお話ししたいのは、もう一つのノーベル賞受賞者です。ご承知の通り、この度EUがノーベル平和賞を受賞しました。素晴らしいことだと私は思っています。ただ、この受賞には賛否両論があるようです。元々よくにノーベル平和賞はヨーロッパの政治的思惑が濃いのは事実と思いますが、なんでギリシャに端を発する金融債務危機がEU全体に広がって

る最中に受賞させるのだとの批判でしょう。確かに金融経済面では、統一通貨EUROMまで導入した中での困難性をいかに克服していか、EUは試練に立たされていると言えます。しかし、EUは経済面が強調されますが、決して経済統合のみを目的としてきた組織ではありません。友愛の父カレルギー伯の唱えた汎ヨーロッパ主義

でもEUは、友愛の父クレーデンホフ・カレルギー伯が汎ヨーロッパ主義を提唱したことによって、シユーマン宣言によってアルザス・ロレーヌ地方に石炭鉄鋼の共同管理会社を作られ、大きな戦いを繰り返してきたドイツとフランスが共通の汗をかき、二度と戦場にしないために創造されたものです。EUの安全保障体制が完全に出来上がったとは思いませんが、第二次大戦後EU加盟国間で戦火を交えたことはなく、平和の構築に大いに貢献してきたことは疑いのないところではあります。

私が総理時代に東アジア共同体構想を強く主張してきた理由もそこにあります。政治体制が異なる国々との間で、政治的な統一を実現することは容易でないことは事実でしょう。しかし、どんな困難が伴っても、東アジアを不戦共同体にしたいとの願いから構

想を掲げて参りました。東アジア共同体構想 お蔭さまで、東アジア共同体構想はアジアの国々に大変に高く評価して戴きました。韓国の李明博大統領からは、最初の日韓首脳会談の席で、私が述べる前から、「東アジア共同体構想は、友愛の精神に基づき、これからアジアを良い道に導いていく考えである」と積極的に協力を約束して下さいました。また、韓国が北朝鮮によって哨戒艦を沈没させられ、四十六名の犠牲者が出たときには、早速国を代表して大田(テジョン)顕忠院で犠牲者に献花いたしました。その折には大統領専用ヘリを私に貸して下さるほど感謝して戴きました。

中国に関しては、先日、程永華大使夫妻と食事をいたしました際に、「中国は本当にあなたの東アジア共同体に期待していました」との言葉を戴きました。胡錦濤国家主席や温家宝総理が東アジア共同体に協力的であったことを懐かしく思い出しました。私が総理を辞する二日前に、温家宝総理と首脳会談をいたしましたとき、東シナ海のガス田の共同開発について、先方から「二〇〇八年の合意を履行したい。国際約束締結交渉を早期に開始したい」と、止まっていた交渉を再開する約束を戴きましたし、何かのときのために、ホットラ

インを引こうとまで提案して下さいました。私は尖閣諸島問題とも絡む東シナ海でのガス田開発を日中共同で行うことが「友愛の海」を創り、独仏間での石炭鉄鋼共同体における協力と同じような効果をもたらす事業と思っております。温家宝総理の方から提案を戴いたことで、ガス田の共同開発を通じて、東アジア共同体構想が大いに進展していくものと感激したものでした。

また、共同体に向けての具体的な協力として、若者たちの交流が第一と考え、日中韓サミットにおいて三カ国間で大学の単位を互換を認めるキヤンパスアジア構想を提案いたしました。この構想は現在着々と進められています。このような極めて温かな雰囲気の下で首脳同士が信頼関係を高め合っていましたので、日中間も日韓間もトラブルはありませんでした。ありようもなかったのです。私が総理を辞した際に行われた代表選で、私は菅直人候補に「東アジア共同体構想を引き継いでほしい」と依頼し、菅候補はみんなの前でそのことを約束してくれました。しかし、菅総理になって以来、現在の野田総理の口からも東アジア共同体という言葉が聞かれなくなりました。

周辺諸国との関係 周辺諸国との関係は急速に冷えて行きました。日中間では尖閣諸島問題が火を噴き、日韓間では竹島問題が再燃しました。メドヴェージェフ首相が大統領時代と併せて二度も北方領土を視察しました。大手メディアはこぞって私のせいにしてと書いていま

すが、それは全く筋違いです。私の時には何事も起きなかったのですから。周辺諸国との首脳間の信頼関係が薄くなっていることが最大の問題なのです。とくに野田総理や安倍総裁、さらには石原都知事や橋下大阪市長のような、対米従属的な発想のタカ派思考は徒に中国を刺激するのです。私は尖閣諸島が歴史的に見て日本の領土であると信じています。一八九五年に日本が領有を宣言してから、石油が出る騒がれ出した日中国交正常化の頃まで、中国は尖閣諸島が日本の領土であることに疑義をはさむことをしてきませんでした。中国が領有権を主張し始めたのはこの周辺海域で石油やガスが取れると分かってからのことです。したがって、中国の主張には無

理があります。しかし、中国の楊外相は一八九五年の日清戦争によって日本が盗んだものだから返せと国連で演説しました。その主張は正しくありません。なぜなら、日清戦争で日本が奪ったのは台湾と澎湖列島であり、尖閣は含まれていないからです。尖閣諸島は日清戦争とは関係なく、誰も住んでいない無主の地と言うことを調べて、日本が領有したものです。

ただ、日本は尖閣諸島に領土問題は存在しないと断言しています。結果として、中国側の主張に反論出来ていません。逃げることなく、堂々と正面から正当性を主張すれば良いのです。噛み合わないければいつまで経っても問題は解決しません。

日中国交正常化四〇周年の年 今年の日中国交正常化四〇周年の記念すべき年でした。本来両国が更に良好な関係を築く好機でした。日中をこれ以上近づけさせたくないという力が、この好機を奪うだけでなく、極めて遠ざけてしまったことが残念でなりません。私は尖閣諸島の国有化が間違っているとは思いません。私有地や公有地にするより安心できるでしょう。しかし、このような決断を行うときには、事前に相手と交渉し、納得は無理でも暗黙の了解を得ておくものです。それもなく、APECで野田総理と胡錦濤国家主席が立ち話をしたときにしっかりと話しもせず、二日後に国有化を決めれば、胡主席は体面がいたく傷つけられたと感ずるのは無理ないこと

です。ここは四〇年前の賢者の智慧を学ぶべきです。周恩来―田中角栄会談で、田中首相が尖閣問題を持ち出そうとしたところ、周総理が「今回は話したくない。今これを話すのは良くない」と先送りを求めました。事実上、尖閣問題は棚上げされたのです。周総理は日本の実効支配を暗黙に認めながら、解決を後世に委ねたのですし、田中総理もそれに納得したのです。今求められているのは、両者ともに冷静になるべく、この先人の知恵に反することと思いません。

いくつもの記念事業が中止や延期になったのは残念ですが、このような時こそ、日本友愛協会の日中交流植林活動は継続すべきです。衆議院議員 鳩山由紀夫

が、このような時こそ、日本友愛協会の日中交流植林活動は継続すべきです。

衆議院議員 鳩山由紀夫



私が総理時代に東アジア共同体構想を強く主張してきた理由もそこにあります。政治体制が異なる国々との間で、政治的な統一を実現することは容易でないことは事実でしょう。しかし、どんな困難が伴っても、東アジアを不戦共同体にしたいとの願いから構

想を掲げて参りました。東アジア共同体構想 お蔭さまで、東アジア共同体構想はアジアの国々に大変に高く評価して戴きました。韓国の李明博大統領からは、最初の日韓首脳会談の席で、私が述べる前から、「東アジア共同体構想は、友愛の精神に基づき、これからアジアを良い道に導いていく考えである」と積極的に協力を約束して下さいました。また、韓国が北朝鮮によって哨戒艦を沈没させられ、四十六名の犠牲者が出たときには、早速国を代表して大田(テジョン)顕忠院で犠牲者に献花いたしました。その折には大統領専用ヘリを私に貸して下さるほど感謝して戴きました。

中国に関しては、先日、程永華大使夫妻と食事をいたしました際に、「中国は本当にあなたの東アジア共同体に期待していました」との言葉を戴きました。胡錦濤国家主席や温家宝総理が東アジア共同体に協力的であったことを懐かしく思い出しました。私が総理を辞する二日前に、温家宝総理と首脳会談をいたしましたとき、東シナ海のガス田の共同開発について、先方から「二〇〇八年の合意を履行したい。国際約束締結交渉を早期に開始したい」と、止まっていた交渉を再開する約束を戴きましたし、何かのときのために、ホットラ

すが、それは全く筋違いです。私の時には何事も起きなかったのですから。周辺諸国との首脳間の信頼関係が薄くなっていることが最大の問題なのです。とくに野田総理や安倍総裁、さらには石原都知事や橋下大阪市長のような、対米従属的な発想のタカ派思考は徒に中国を刺激するのです。私は尖閣諸島が歴史的に見て日本の領土であると信じています。一八九五年に日本が領有を宣言してから、石油が出る騒がれ出した日中国交正常化の頃まで、中国は尖閣諸島が日本の領土であることに疑義をはさむことをしてきませんでした。中国が領有権を主張し始めたのはこの周辺海域で石油やガスが取れると分かってからのことです。したがって、中国の主張には無

理があります。しかし、中国の楊外相は一八九五年の日清戦争によって日本が盗んだものだから返せと国連で演説しました。その主張は正しくありません。なぜなら、日清戦争で日本が奪ったのは台湾と澎湖列島であり、尖閣は含まれていないからです。尖閣諸島は日清戦争とは関係なく、誰も住んでいない無主の地と言うことを調べて、日本が領有したものです。

ただ、日本は尖閣諸島に領土問題は存在しないと断言しています。結果として、中国側の主張に反論出来ていません。逃げることなく、堂々と正面から正当性を主張すれば良いのです。噛み合わないければいつまで経っても問題は解決しません。

日中国交正常化四〇周年の年 今年の日中国交正常化四〇周年の記念すべき年でした。本来両国が更に良好な関係を築く好機でした。日中をこれ以上近づけさせたくないという力が、この好機を奪うだけでなく、極めて遠ざけてしまったことが残念でなりません。私は尖閣諸島の国有化が間違っているとは思いません。私有地や公有地にするより安心できるでしょう。しかし、このような決断を行うときには、事前に相手と交渉し、納得は無理でも暗黙の了解を得ておくものです。それもなく、APECで野田総理と胡錦濤国家主席が立ち話をしたときにしっかりと話しもせず、二日後に国有化を決めれば、胡主席は体面がいたく傷つけられたと感ずるのは無理ないこと

です。ここは四〇年前の賢者の智慧を学ぶべきです。周恩来―田中角栄会談で、田中首相が尖閣問題を持ち出そうとしたところ、周総理が「今回は話したくない。今これを話すのは良くない」と先送りを求めました。事実上、尖閣問題は棚上げされたのです。周総理は日本の実効支配を暗黙に認めながら、解決を後世に委ねたのですし、田中総理もそれに納得したのです。今求められているのは、両者ともに冷静になるべく、この先人の知恵に反することと思いません。

いくつもの記念事業が中止や延期になったのは残念ですが、このような時こそ、日本友愛協会の日中交流植林活動は継続すべきです。

衆議院議員 鳩山由紀夫

特別寄稿(その2)

福島第一原発事故と「食」

慶應義塾大学医学部教授 井上浩義

原発事故―食への影響

前号に引き続き、今号では福島第一原発事故の「食」への影響について報告させて頂きます。

御存知のように、放射線被ばくには、身体の外側から放射線を浴びる外部被ばくと放射性物質が身体の中に入り込むことによる内部被ばくがあります。我々の細胞に近くなる内部被ばくの方が健康影響をより懸念されるのは自明のことです。そのような意味で、私たち国民は食品の安全性に高い関心を持つべきです。

前号に書かせて頂きましたように、原子炉から放出された放射性物質は空から降ってきます。このため、露地ものの農作物には、放射性物質が広く付着します。最初に、食品の放射能規制値を超えたのは、天に向かって葉を広げているホウレン草でした。その後は、放射性物質の濃縮が大きなきのこや牛肉、そして静岡や神奈川ではお茶まで、多くの農林産物が基準値を超えて、出荷停止となりました。事故後、五〇〇余日を経過した現在でも、本

年四月に食品の放射能規制値が五倍厳しくなったことも影響して、汚染農林産物が散見されています。また、汚染の拡がりが進む海洋では、放射性セシウムやストロンチウムが堆積する海底の生物だけでなく、回遊魚からも規制値を超える放射能が見つかっています。一方で、実効性に乏しいことから水産庁は放射能検査を行わないとしています。

これまでに見つかった汚染農林水産物 (自主規制を含む/抜粋) 農産物―お米、ホウレン草、小松菜などの非球根葉物野菜、キャベツ、ハクサイなどの球根葉物野菜、梅、ゆず、お茶(静岡、神奈川)、その他 林産物―きのこ(福島、宮城、岩手、茨城、栃木、千葉、神奈川、長野、静岡)、山菜(福島、宮城、岩手、茨城、栃木)、たけのこ(福島、宮城、岩手、茨城、栃木、千葉)、栗 水産物―マグロ、スズキなどの海水魚(青森、岩手、宮城、



米の放射能を測定する参加者

福島、茨城、いわな・ウグイなどの淡水魚(岩手、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉)、ウナギ(宮城、福島、茨城、千葉)

畜産物(牛肉(岩手、宮城、福島、栃木)、牛乳)

【県名が入っていないものは福島県単独】

眼を福島に転じてみますと、福島県の農林産物の生産額は年間二千五百億円にも及び、全国第7位の農業県です。この農業県が今回の事故で危機に瀕しています。特に、二千五百億円の約40%を占める

お米は、昨年、二本松市や福島市で基準値を超えるお米が出たことから、販売が難しい状況になっています。岩瀬郡天栄村の全国品評会で四年連続金賞を獲得しているお米は昨年から全品検査し、放射能がないことを証明してから出荷しています。それでも、売れないのです。なお、今年から福島のお米は全袋検査をして出荷されます。

義塾大学日吉キャンパスで、農家の方々に来て頂いてパネルディスカッションを開催し、実際に、GMサーベイメータで農産物について放射能を測る催しを行いました(写真は米の放射能を測定する参加者。横浜を中心に多くの主婦や子どもたちが参加してくださいました。しかし、当日、農家の方々が参加者に無料で配るよう朝早くから準備してくださったオニギリはびっくりするくらいに残ってしまいました。放射能がないことを証明されたお米であっても、

消費者は買ってくださいさらないのです。私の講演は市民向けが多いのですが、今年初めから関西を中心に、地方議員さん向けの講演が増えました。いわゆる、広域処理における震災がれきの受け入れのための勉強のためです。北九州市や大阪市などでは多くの受け入れ反対運動が起こっています。しかし、広域処理の震災がれきは放射能濃度が高くない宮城県石巻地区のもので、すべて放射能測定して一〇〇ベクレル/kg以下のものだけです。

震災直後に、我々は「こころをひとつに」、「ひとつになろう」というスローガンをたくさん目にし、口にしてきました。自らの健康を犠牲にしてまで、福島に寄与すべきとは決して思いません。ただ、科学的に安全と証明されたものを回避し、受け入れないのは初心に反するような気がします。

*福島県天栄村の米オーナー制度・村サポーター制度については、同村産業振興課まで
電話 0248-82-2117
Fax 0248-82-2718

あれは大変助かる(セキュリティの都合で掲載できないのだろうか?)し、朝食、昼食、夕食を頂ける基本的な時間やお風呂を利用できる時間等が分かれれば、ある程度それらの情報を吟味した上で、心にゆとりを持って相談することが出来る筈だ。この他には特に困る事は無かった。

皆で雲場池を見学し、紅葉の頃にも来たものと、鴨にご挨拶。午後からは、食堂を兼ねた広間のピアノで練習、澄んだ空気のせいでしようか、とても良い気分が歌いました。洗い場が広いお風呂場も快適で、シャワー室も別にあって好評でした。山荘のスタッフの方々は皆親切で、食事も心がこもっていて美味しく頂きました。

翌日は、昼食後何人かで散歩しながら、少々買い物。最後の日は、大賀ホールでの夏の音楽祭の演奏を楽しみ、軽井沢の空気を満喫しました。友人たちの「また此処に来たいワネ」の声も出て、私は今度は、友愛山荘の洋室に泊まってみたいなと思いつきながら、軽井沢を後にした楽しくも大満足な旅でした。

特別寄稿

軽井沢友愛山荘ご利用者の声

合宿・友人と・家族旅行ー今年も大にぎわい



友愛山荘のいいところ

練馬区立大泉第三小学校

六年 浦田 千愛

私は、おふろがキレイなのが一番印象に残りました。お風呂の中には、いいところがたくさんあります。一つ目は、シャワーのボタンが少しおすだけでお湯が出るところです。

二つ目は、ゆぶねが広いことです。あと、前のおふろは、ゆぶねが深く入りずらかったけど、今は段があるし、深くないのでとってもいいです。三つめは、入浴剤の香りです。ハーブのおいがツンとしないけど、甘くもない香り、私は好きです。四つ目は、ドライヤーがあ

ることで、私はかみが長いので、ドライヤーがあるとすく、かみがかわかわからず、ほかに、芝生の庭とテニスコートが広くてキレイなのが印象に残りました。お庭がひろくてとってもキレイでもちいいし、テニスコートは広くて、本格的なテニスもできます。

また、軽井沢友愛山荘に遊びに行きたいと思いました。(原文まま)

友あい山そうにお世話になつて

文京区立関口台小学校

三年 西村 はるか

二年前の小学校一年生から友あい山そうに行っています。来ているお客さん方も、毎年来ての方が多いいようです。わたしの一番の楽しみは、

手作り心こもったとてもおいしい朝、夕ごはんです。わたしが一番おいしいと思つたのが、夕はんに出たおそばです。いつも品数も多く、ぜんぶ食べると、おなかっぱんぱんにふくれます。広いおにわでいと子のちえちゃんともとひろくとバトミントンであそびました。と中、雨がふつてきて、短い時間でしたが楽しかったです。

私が帰る日、その日からしゆくはくするお客さんを、かめ田さんが「おへやにあん内さんといっしょに二階のへやにつれて行ってあげました。初めていらつしたお客さんなので、やさしく親切にあん内しようと思つました。お客さまから「ありがとう」と言われ「やったー!」と思いま

かめ田さんのむすめさんのうさ美さんには、すぐにお茶をだしてもらつたり、やさしくしてもらつてうれしかったです。また来年も楽しみにしています。(原文まま)

初めての幹事経験
明治大学理工学部情報科学科
四年 坂井 誠也

今年の夏、私は大学のゼミ合宿で、軽井沢友愛山荘を利用させて頂くことになった。元々は大学の寮を利用する予定だったのだが、先輩からのおすすめもあり、総勢二〇名強、ほぼ貸切状態で利用させて頂くことになった。

友愛山荘に泊まってよかつた事は、何よりも手厚いサポートだ。私自身が大学生であり、このような大人数での合宿で、しかも幹事という経験はしたことが無く大変に不慣れであったのだが、東京の事務所への電話においても現場においても、状況に応じて柔軟に対応して頂き、大変に助かった。山荘の方々の手助けのおかげで、無事合宿を終えることができた。とても感謝している。次に良かったことは、食事が美味しかった事だ。大人数で合宿等の宿泊まりをする場合、どうしても食事が冷めてしまつたりして、美味しく頂けないケースが多いのだが、友愛山荘で頂いたカレーは冷めること無く大変美味しく頂く事が出来た。

一方で若干困つた事もあつた。ウェブサイトの情報が若干少ない事だ。勿論電話で話せば分かる情報ばかりなのだろうが、出来れば電話口でのサポート等で手を煩わせたのは無いので、ウェブサイトで確認できる情報は多ければ多い程助かる。部屋割りをする上で、山荘内の見取り図が

私は以前に、友愛山荘を訪れたことがあります。当時は、いかにも若者の合宿所という感じでした。先日、私共「コーラスY2」の合唱グループで、友愛山荘での二泊三日の合宿をしました。

久しぶりの友愛山荘

五島 珠江

私は以前に、友愛山荘を訪れたことがあります。当時は、いかにも若者の合宿所という感じでした。

先日、私共「コーラスY2」の合唱グループで、友愛山荘での二泊三日の合宿をしました。

久しぶりに訪れた友愛山荘は、先ず玄関の様子から違つていて、プチホテルを訪れた雰囲気でした。ロビーの先が広々とした庭で、リスが常宿にしているとか。リニューアルした日本のお部屋は、明るくて清潔感があります。でも五人で一部屋は、修学旅行

館内のお部屋や備品はそれぞれ細やかな部分にまで手入りが行き届き、本当に心地よい時間を過ごすことができました。今回の研修は、塾長、塾生、スタッフらを含め二〇数名で訪れ、個々の考えや意見を交わし、密度の濃い時間を共有できたのは、友愛山荘が研修の場であったことも大きな要因であらう。

友愛山荘の設備を十分利用させて頂いたが、会議室は二〇名ではほぼ満員だった。今後もっと参加人数が増えた場合、会議室が手狭になることが懸念された。また、会議室の天井が高いので照明が届きにくく、手元の資料を読んだり、文章を書いたりするのが少し辛く思われた。スペースに余裕がないことと暗いこともあり、途中で食堂に移動して研修を行ったが、今度はキッチンから聞こえる音で塾長の声がよく聞き取れなかった。周辺が静かなだけに、食器の音や調理場からの音が余計響いて感じられたのが残念であった。会議室はもう少し大きく、かつ照明を明るくして頂くと、大勢の方が利用しやすくなると思うので、一度ご検討して頂けるとありがたい。

地元の素材で工夫された美味しいお食事を頂き、細やかな心遣いで支えて下さったスタッフの方々に会い、そして自然溢れる友愛山荘という場で過ごした経験は、私にとっていつまでも思い出深いものとなるだろう。人と人とのつながり、そしてその人を包み込むような自然の雄大さに心から感謝する二泊三日であった。

*皆様のご利用、ご投稿に深く感謝申し上げます。

友愛 ほんだな

- 1) 民主党の原点一何のための政権交代だったのか
- 2) 「本当のこと」を伝えない日本の新聞
- 3) 戦後史の正体 1945-2012

今回の「ほんだな」では、三冊の本を一挙にご紹介したい。一見なんのつながりもないように思えるが、三冊の本をたどると、「事実」という源流に行き着く。

三冊の書に共通しているのは、書かれている事実は、著者でなければ伝えられなかった、導けなかった内容であり、マスメディアの陰に隠されてしまっていた事柄だという点である。情報過多の現代、情報を取捨択一する必要があるのである。その際、要となるのは「本当のこと」だ。「事実を知る権利」はよく口にする言葉である。しかし同時に判断をするためには、「事実」を知る「義務」もあるのではないだろうか。そのことを、思い起こさせてくれる三冊の本である。日本という国を考えるためにも一読をお薦めする。

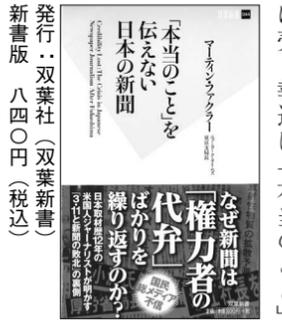


発行：花伝社
A5版 八四〇円(税込)

『民主党の原点一何のための政権交代だったのか』著者：鳩山由紀夫(元内閣総理大臣・衆議院議員) 高野孟(フリージャーナリスト)

(旧)民主党結党時、理論的支柱を務めたジャーナリストの高野孟氏は、現在千葉県鴨川に「大山村塾」を開塾し活動している。その大山村塾で行われた、鳩山由紀夫元総理大臣と高野孟氏の講演録である。現在批判の矢面に立たされている民主党だが、結党時の理念は、今も活かしている

のか。本書に掲載されている「結党時の理念文書」には「友愛精神にもとづく自立と共生の原理」と、政治理念が記されている。政治に必要な理念を、現在の民主党は貫いているのか。鳩山政策批判の前に、知るべき事実として一読する必要がある。大きなメディアでは伝わらない、鳩山由紀夫元総理の思い、胸の内、実際何があったのかという「本当のこと」を知って欲しい。「民主党の原点」を知った上でこそ、正しい判断が生まれるのではないだろうか。「本当のこと」を伝えない日本の新聞



発行：双葉社(双葉新書)
新書版 八四〇円(税込)

本のマスコミへの概文ともいえる一冊である。著者は3・11直後、日本のメディアは訪れなかった被災地に入り、人、事実、という観点からニューヨークに記事を送り続けた。この3・11報告記事はビュリッツァー賞のファイナリストとなった。震災直後に、現地で被災者の声を拾い、実際に目撃したことを綴ったレポートには「事実」を伝える迫力がある。そして「記者クラブ」という組織、大本営発令的な、受け売り報道に「本当のこと」

を追うジャーナリストとして鋭く切り込んでいく。『戦後史の正体 1945-2012』著者：孫崎 享(元駐ウズベキスタン大使・駐イラン大使)

日本の歴史のなかで、一番知らなければいけない部分ではないのが戦後史である。特にその「事実」となると、意図的に隠されている政治的事実も含め、知っているようで知らないことの多いことか。本書は、公開された公文書、あるいは当事者の書いた自伝などあらゆる書物から事実につながる事柄を集め、解説している。敗戦時の無条件降伏は、文字通り無条件であり、今日の諸問題にまで影響している事が、事実をつないでいくと解ってくる。部分的に、著者の個性が強く表れている感があることは否めな

いが、事実の羅列に驚きと発見を禁じえないだろう。発刊以来増刷を重ねているのは、喜ばしいことだ。一人でも多くのの人に読んでもらいたい貴重な書である。「知る義務」を遂行するためにも。(H)



発行：創元社
B6版 千五百七十五円(税込)

「時事川柳研究会」会長 服部迪夫さんの作品

時事川柳 服部迪夫 作
—千葉アキララインマラソン—
岩盤の強度も量るアキラライン
—大滝さん逝く—
天国で名脇役を演じてる
—ファイギア・羽生選手—
天国と地獄味わう十七歳
—沙保里さん—
国民が納得をする栄誉賞
—日本外交の指針—
仲良くね向こう三軒両隣

シルクロードをゆく(四)

大洞龍明

インドでの三年間、上座仏教(小乗)を極めたクマラジュウは再びシルクロードを経て古代キジ国への帰国をめざします。途中パミール高原・月氏国の北山で一人の修行者に出遇います。彼はクマラジュウの顔を見て「もし、三十

五才までに破戒しなければアシヨカ王を教化したウバクツタと同じように、仏教を興隆させるであろう」との予言を母ジグダに伝えました。

次にカシユガル(シルクロードで最も繁栄を極めていたオアシス国家の一つ)に至り、

仏教以外の天文学・兵法学・音楽・論理学・占星学など諸々の学問を二年間に亘って学習しました。

時にヤルカンドの王子スリヤソマが、カシユガルに滞在して大乘仏教を伝えていました。彼が説く大乘の教えは、クマラジュウがキジ国やカシ

ミールで修学した阿含教を中心とした上座仏教(小乗)とは相容れないものでした。大乘を受け入れることは、過去の自分の全否定につながるため、大変な葛藤がありました。スリヤソマは「現実世界の存在は因縁所生のものであって、実有なものではない」と教えたのです。クマラジュウは大

乗空観の教えに道理があることを悟り回心しました。少し難しいお話でしたが、ひとつのエピソードを紹介しましょう。

ある時東大寺長老の清水公照師のところへ一人のドイツの青年が訪ねてきました。「仏教で言う無とか空の思想はいついどういう意味があるのですか?何を言おうとしているのですか?」と聞きました。公照師は「どう答えたかと思いませんか?それを面白いことに一言で答えておられます。「腹が減つたら何でもうまい」するとそのドイツ青年は納得したような顔をして帰っていったということなんです。

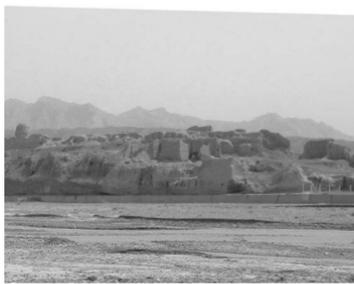
ついに大乘仏教への回心を果たしたクマラジュウは「今まで小乗仏教を学んでいたことは、たとえ黄金の輝きを知らないで銅の輝きが最上美と考えていたことと同じことだった」と述懐しています。キジ国へ帰って二十才の時、ヒマラシヤを師として受戒し正式な僧侶となり大乘の教え

を人々に広めました。その頃には遠く中国にも名声が知られるに至りました。

この頃母ジグダは彼と別離することを決意し、再びインドへの修行の旅に出ます。出発にあたって「中国に正しい大乘仏教の教えを伝えるのはあなただけです。それは決してあなただけの利益とはならず苦しむことでしょう。どうしますか?」と問います。彼は「この大乘仏教の教えを東方の国々に伝える悟りに至らしめることができるのであれば、自分はいろり鍋で焚かれるような苦しみがあったとしても悔いはありません」と答えたのでした。



河西回廊地図



スバシ故城東岸

五胡十六国時代の覇王たち

クマラジュウが生きた四世紀から五世紀にかけての中国は五胡十六国の時代です。五種の異民族(キョウド・センビ・テイ・ケツ・キョウ)が次々と十六の国を建てて漢民族を支配し、華北を占拠していききました。漢民族の王たち

を追い追うジャーナリストとして鋭く切り込んでいく。『戦後史の正体 1945-2012』著者：孫崎 享(元駐ウズベキスタン大使・駐イラン大使)

日本の歴史のなかで、一番知らなければいけない部分ではないのが戦後史である。特にその「事実」となると、意図的に隠されている政治的事実も含め、知っているようで知らないことの多いことか。本書は、公開された公文書、あるいは当事者の書いた自伝などあらゆる書物から事実につながる事柄を集め、解説している。敗戦時の無条件降伏は、文字通り無条件であり、今日の諸問題にまで影響している事が、事実をつないでいくと解ってくる。部分的に、著者の個性が強く表れている感があることは否めな

いが、事実の羅列に驚きと発見を禁じえないだろう。発刊以来増刷を重ねているのは、喜ばしいことだ。一人でも多くのの人に読んでもらいたい貴重な書である。「知る義務」を遂行するためにも。(H)

時事川柳 服部迪夫 作
—千葉アキララインマラソン—
岩盤の強度も量るアキラライン
—大滝さん逝く—
天国で名脇役を演じてる
—ファイギア・羽生選手—
天国と地獄味わう十七歳
—沙保里さん—
国民が納得をする栄誉賞
—日本外交の指針—
仲良くね向こう三軒両隣

とされてしまっています。

呂光將軍はクマラジュウとおびたしい財宝を入手してシルクロードを東進し長安への帰路、敦煌をすぎたあたりで、主君・苻堅王がクーデターで命を落としたことを知り、呂光は河西回廊の中程に位置する前涼国の都・姑藏城(現在の武威)を攻め、後涼国を創建し自ら王位に就きました。この後涼国の姑藏城でクマラジュウは三十五年九月から四〇一年十二月までの十七年間ほぼ幽閉状態にありました。(つづく)

◆歳とともに周囲や自分いろいろな変化が訪れる。そして、その折々の言葉や感情が妙に気になる時がある。とくに最近の自分自身を見つめると山頭火の「うしろ姿のしぐれっていくか」そんな句がびつたりと感じられ、気になるようになって来た。以前、読売川柳に「床屋行く、金髪あれど髪はなし」という句が載り、一寸身につまされて今でも忘れられない。

金子兜太が九十四歳で詠んだ「今を生きて 老いを思わず 去年今年」という句を、何かで読んだことがあるが、そんな気が迫る新しい自分を拓く縁となればと事有る毎に思いながら、今年も師走を迎える。(K)

◆先月二十七日、友愛ドイツ歌曲コンクール第一次予選が開催された。本年度から実行委員会制度を採用し、コンクール運営に協力をしてくださる方々を、審査員とは別に実行員として迎えられることにしたのだ。実行委員は皆、現役の音楽家やクラシック音楽に造詣が深い方々である。友愛のコンクールは、こういった情熱と善意の音楽家に支えられて二十三年間続けてくることが出来た。ただただ感謝するばかりである。(GO)

◆前号(九月)では曇りを嘆いたが、二ヶ月後、今度は寒い季節とはいえ、暑いと寒いは大違い。今年は秋晴れの心地よい日があまりにも少なかった。温暖化・異常気象という言葉が頭をかすめる。それでも自然の生物は正直に季節を感じ、表現している。軽井沢友愛山荘荘園前の大きなモミジが、例年通り色づき始めたようだ。一本の木が、紅、黄、橙と何色にも紅葉する。残る緑も混じり、その見事に通りがかりの方も写真を撮られるとか。一見の価値あり、友愛山荘にお出かけください。(も)

